ホルヘ・ゴンサレス・ブアハサン（ピアノ）

Jorge Gonzalez Buajasan, piano

1994年、キューバのハバナに生まれる。アレハンドロ・ガルシア・カトゥーラ音楽院でピアノを学び、10歳でアマデオ・ロルダン・コンクールにて第2位に（あわせて最優秀キューバ音楽演奏賞を受賞）、第4回ハバナ・イベロアメリカ・コンクールにて第3位にそれぞれ輝いた。

これまでヨーロッパ各地の著名な会場の舞台に立っている。パリ管弦楽団主宰の“プレリュード公演”として、パリのサル・プレイエルにてピアノ三重奏曲を演奏。2015年にはボリス・ベレゾフスキーからの招きで、ルイ・ヴィトン財団オーディトリウムで演奏した。その後、クラヴィーア・オリンプ（バート・キッシンゲン）への参加がかない、第1位および聴衆賞を獲得。

この快挙により、2016年7月にキッシンゲンの夏音楽祭から招かれ、ソリストとしてローレンス・フォスター指揮マルセイユ・フィルハーモニー管弦楽団と共演した。またボン・ベートーヴェン音楽祭、ミュンヘンのヘルクレスザール（バイエルン放送により収録・配信）ではリサイタルを開催。さらにミュンヘンのスター・ライジングスター音楽祭では、エリーザベト・レオンスカヤとのジョイント・リサイタルをおこなった。のちにラ・ロック・ダンテロン国際ピアノ音楽祭、ピアノ・オ・ジャコバンなどから招かれ、リガにてソリストとしてヴァシリー・シナイスキー指揮リトアニア国立管弦楽団と共演。

フェリックス・ミルデンベルガー指揮フランス国立管弦楽団とは定期的にラジオ・フランスのオーディトリウムで共演しており、今後、同団のメンバーたちとの室内楽公演も予定されている。また2020年にはクリスティアン・ツァハリアスのリサイタルにも出演した。

2018年、ヴァイオリン奏者マノン・ガリおよびチェロ奏者マクシム・ケネソンとともにピアノ三重奏団「トリオ・ゼリハ」を結成し、翌年のFNAPECヨーロッパ室内楽コンクールで優勝。のちにトリオ・ヴァンダラーとともにコンサート・ツィクルスに参加した。トリオとして、オートンス・カルティエ=ブレッソン、ロラン・ピドゥ、オリヴィエ・シャルリエ、エマニュエル・シュトロッセ、リーズ・ベルトー、エベーヌ弦楽四重奏団、モディリアーニ弦楽四重奏団から定期的に助言を得ている。

ミラーレ・レーベルから2020年にリリースされたトリオ・ゼリハのデビュー盤には、メンデルスゾーン、アレンスキー、ショスタコーヴィチの楽曲が収められている。

2006年に渡仏しパリで学ぶ。2008年、キューバ文科省特別奨学金を授けられた。2014年にパリ国立高等音楽院に入学し、カルティエ=ブレッソンに師事。在学中から、ジャン=フレデリック・ヌーブルジェ、レオンスカヤ、メナヘム・プレスラー、ラドゥ・ルプーら多数のピアニストの指導を受けている。2019年、クララ・ハスキル国際ピアノ・コンクールにて「若き批評家賞」を受賞。